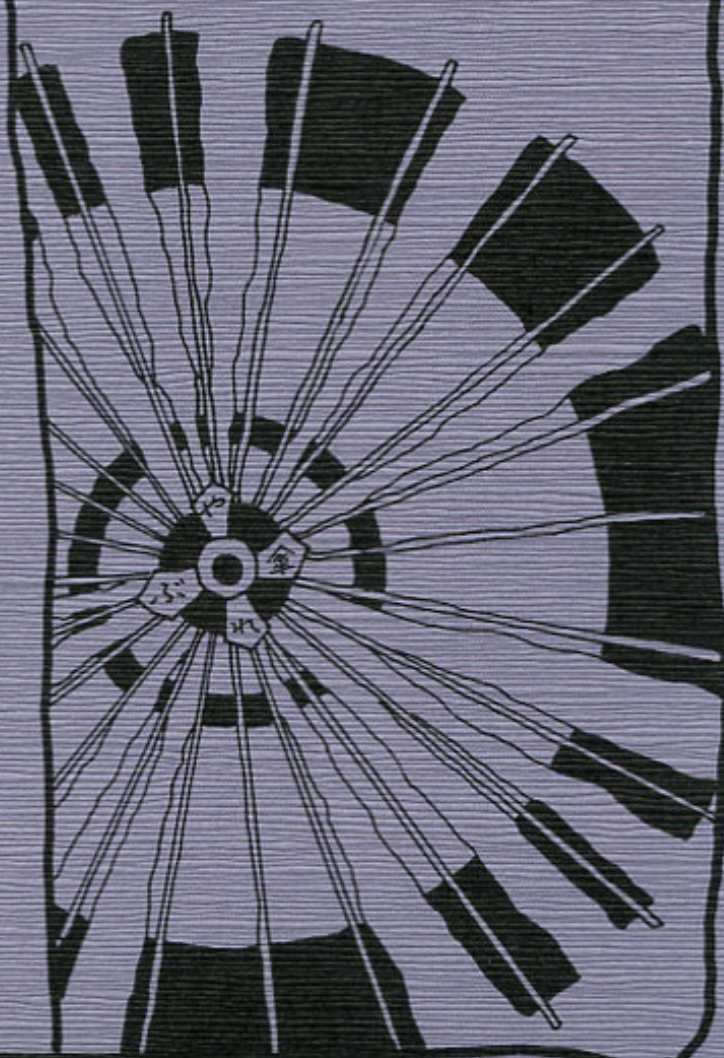


やぶれ傘



六十号

二〇二一年六月

春の鴨草に座りてゐたりけり	根橋宏次
春鮒の背びれを雨に濡らしをり	きくちきみえ
魚群れて流れにひかる夏隣	廣瀬雅男
切株に座してひとときらんさう	大島英昭
春昼の循環バスに乗りにけり	天野美登里
紙風船つきて十まで数へけり	國保八江
古草や二階へ上がる外梯子	瀬島洒望
目の赤き牛の座像や梅の花	丑久保勲
川沿ひは暮れなんとして春の雨	白石正躬
川よりの風に乱るる夕桜	藤井美晴
下校時のバスを待つ列花は葉に	渡邊孝彦
新しき句帳に一句花海棠	安藤久美子
会葬の礼状添へて新茶かな	久世孝雄
ミモザの黄庭に零るる朝かな	有賀昌子
バルト海スワンの群るる五月かな	松村光典

抄 集 句 選 夫 紀 崎 大 傘 ぶ れ や

舗道まで占めて花屋のチューリップ	高橋 均
桃の花蚕室の窓開け放つ	都丸スミ代
枝下す木口の香り春来る	中村則夫
みどり児におにぎりほどの雪だるま	貫井照子
鳥曇り漬物樽を仕舞ひけり	広瀬 濟
耳遠き犬のねまりてのどかなり	松本正生
農園に掘り起されて春の土	秋山信行
シーサーと土雛並ぶ美容室	岩藤礼子
並足に栗毛寄り来る春の牧	小川 滋
花冷えやそばやのだしをとる匂ひ	上林富子
春陰や図書館に鉛嚙みくだき	菊地葉子
涅槃西風絵馬殿の鍵新しき	忽那みさ子
不動尊参るついでの浅蜷飯	小池一司
菩提寺に新しき鐘山笑ふ	齋藤朋子
犬ふぐり細に流れの戻り来し	篠崎善久

ぺんぺん草

大崎 紀夫

明日葉や隣の島はとうに暮れ
草の芽へ米の研ぎ汁放りけり
猫の背の過ぎゆく雀隠れかな
浜に出る径のぺんぺん草揺れて
山廬へと風を背にゆく桃の花

土壁の穴ふさぐ土花なづな
催しを終へたるテント夕桜
白魚のさみしく透けて骨見ゆる
藤壺へ差し潮いたるおぼろかな
畦曲るところぺんぺん草だらけ
頂にレーダードーム初燕
風車墓にさされて斜めなり

古 草

瀬 島 洒 望

塀越しに白梅見ゆる女坂
 古草や二階へ上がる外梯子
 土佐犬の檻ある庭や梅真白
 ボヘミアングラスにワイン利休の忌
 白^は木^く蓮^{れん}やバンドネオンを飾る店
 麦踏みのひとつ遠目にも小柄なる
 学校のあゝる集落や桃の花
 糸遊や陽の色返す捨て畑
 半分を駐車場にし桑畑
 癌病棟すつぽり青葉若葉かな

梅の花

丑久保勲

目の赤き牛の座像や梅の花
古草の根に土つけて抜かれけり
茶等持院筆筥の鳴りゐる地震春の夜
広縁の板に隙間や花馬酔木
石楠花や瓦ずれゐる地藏堂
村中に鳴る昼のポー青き踏む
桜葉降る校門の半開き
陵墓への径に鎖や鼓草
春嵐線香の束火を吹いて
墨堤の葉桜の蔭濃かりけり

春の雨

白石正躬

昨夜の雨枝に残れる梅の花
春の日や筆の穂先に震へきて
囀りや話すること何もなくて
浅間山野のかげろふの彼方かな
麦青み野川の色の変わりけり
足音に光の走り柳鮠
川沿ひは暮れなんとして春の雨
渡船場のベンチに親子春日傘
休みゐて沢音を聞く春の山
畑中の納屋に人声花辛夷

夕 桜

藤井美晴

畑 広 く 湖 に つ づ け り 夕 霞
草 に 拭 く 墓 参 の 靴 の 春 の 泥
葬 列 は 花 冷 え の 坂 の ぼ り け り
川 よ り の 風 に 乱 る る 夕 桜
木 苺 の 黄 が 池 の 面 に 映 り た る
す た れ た る 寺 の 板 碑 や 蝮 草
水 面 よ り 風 来 て 茅 花 な び き け り
い ち じ く の 葉 に 初 夏 の 光 か な
呉 服 屋 の 軒 の あ た り を 蚊 食 鳥
公 園 の ピ エ ロ に 栃 の 花 垂 る る

花は葉に

渡邊孝彦

遠投の球受くる音木々芽吹く
せせらぎのこゑを遠くに花菜風
山菜莢やざりがに釣りの親子連れ
蛸面の八本足の風揚がる
手旗振る線路工夫や鼓草
花ミモザ庭のパラソル畳まれて
花辛夷空の広さを雲移る
土手道の舗装のはがれたんぽぽ黄
並びぬる庇の鳩や大牡丹
下校時のバスを待つ列花は葉に

花 海 棠

安藤久美子

新しき句帳に一句花海棠
花種の付きし散らしを手渡さる
沈丁の香に迎へられ夜の深む
黄蝶来て庭舐めるやう風絶えて
一紮げして苧環の売られをり
新しき眼鏡越しなるあらせいとう
吟行や地獄の釜の蓋踏んで
玄鳥飛ぶ神も仏も浅草に
三代の五月人形飾り終へ
トンネルと言はれし頃も花は葉に

新茶

久世孝雄

待ち合はす場所を違へし花の昼
徘徊の老婆の訃報花曇
道を染め桜しべ降る雨の午後
菜の花を踏みしだきゆく耕耘機
弘法寺や句碑の桜は葉桜に
二階より見上げる空や柿若葉
竹の秋農機具小屋の土の壁
燕飛ぶ住宅街を分つ川
柳絮飛ぶ地殻変動観測所
会葬の礼状添へて新茶かな

ミモザの黄

有賀昌子

春 灯 母 の 文 箱 に 祖 父 の 文
春 の 海 光 る 礁 の う へ に 鳶
ミモザの黄庭に零るる朝かな
春 暁 の 電 気 ケ ト ル の 滾 る 音
残 る 雪 五 輪 の 塔 の お ほ い な る
春 の 虹 鳶 は ゆ る り と 弧 を 描 き
機 影 な き 三 保 飛 行 場 か げ ろ へ る
海 が め の 来 る て ふ 浜 の 春 日 傘
水 に ほ ふ 土 手 の な ぞ へ の 濃 山 吹
鳥 跳 び の 御 苑 の か ら す 初 桜

バルト海

松村光典

春疾風ドナウの岸の波立ちて
藤の花こぼれつぐなり石畳
天を突きマロニエの花盛んなり
初夏のドナウを染める入日かな
犬二匹日陰に眠る五月かな
バルト海スワンの群るる五月かな
五月雨にひたすら濡るる白き街
手団扇で綿毛を払ふ五月かな
ダニユーブに入道雲の立ちにけり
五月二十日ポプラの綿毛途絶えけり

忙しげに川面に落つる牡丹雪
 春の雪待合室の人いきれ
 しやつくりの止まらざるまま春炬燵
 遠足やリュックのコップ揺れつづけ
 二分咲の桜の下のコップ酒
 舗道まで占めて花屋のチュールッ
 花冷えのむしろに坐る宴かな

高橋 均

タンカーのとき雲あり若葉風
 ゆうるりと鯉の尾鰭や水木咲く
 花冷えや真夜中の酒ひとり酒
 ひよどりの首かしげぬてうらけし
 ホップの実の小さきふくらみ春めいて
 春寒し雉鳩の声しきりなる
 静けさや見あげる母子に桜散る

高柳 正幸

◇ 7～8月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
7月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中心公民館	大崎紀夫・WEP
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	6日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤 井 美 晴
	23日(土)	AM9:00	楽 天 会	戸田市文化会館	廣 瀬 雅 男
	24日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	27日(水)	PM6:00	三 斗 会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
8月	1日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	2日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中心公民館	大崎紀夫・WEP
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤 井 美 晴
	21日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	六 義 園	丑久保 勲
	24日(水)	PM6:00	三 斗 会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	27日(土)	AM10:00	楽 天 会	戸田市教育センター	廣 瀬 雅 男
	28日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

8月21日(日)の吟行。集合は10時。六義園正面入り口。JR山手線駒込駅から徒歩8分。句会場：滝野川会館。302号室。

◎ 連絡先 瀬 島 孟 ☎ 048-862-2757 藤 井 美 晴 ☎ 0422-55-2733
 大 島 英 昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
 廣 瀬 雅 男 ☎ 048-443-7522 浦和コミセン ☎ 048-887-6565
 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ